

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	人文科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	吉田 稔	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義及び演習	
科目の概要 (授業科目の内容)	人文科学概論領域の学習を通して、日常の言語生活を見直すとともに、施術者に求められるコミュニケーション能力の基盤となる理解する力や、考えたことを人と伝え合うための表現する力を身に付ける。	
到達目標	○医療面接に必要なリベラル・アーツ（一般教養）の基礎となる言語技術（ランゲージ・アーツ）を学ぶ。医療面接の基盤となるコミュニケーションの知識と方法を習得する。 ○理療者に求められる理解する力や表現する力をもとに実践的なコミュニケーション能力を習得する。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：15時間
	単元1 コミュニケーションの知識と方法ー言語技術の基礎ー 1 オリエンテーション・自己紹介・科目のゴールの確認 2 言語技術を学ぶ意義と問答ゲーム 3 説明 4 描写 5 ショウアンドテル 6 パラグラフ 7 物語の構造 8 再話	7
	単元2 医療面接の実際1 1 医療前の基盤としてのコミュニケーション能力を確かめる 2 具体的なコミュニケーションスキルとは 3 医療面接のマナー 4 理療者に求められる情報活用能力	4
	単元3 「医療面接」の実際2 1 「問診」における課題と問題点 2 医療面接における十問診の意義	2
	前期のまとめ ・学んだことを振り返って伝えよう	1
	解答解説	1

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：15時間
	単元4 「医療面接」の実際3 1 医療面接の全体像を把握する 2 医療面接の導入部での課題解決のプロセスを考える 3 医療面接の課題解決のプロセスを考える （1）傾聴の段階 （2）中間段階（開かれた問いと要約） （3）後半から終末段階（十問診から診察へ）		5
	単元5 医療面接の質を高めるために 1 質問する力を確かなものするためには 2 傾聴と共感に基づく対話の技法を確かなものにするためには 3 患者の解釈モデルの多様性に対応するためには 4 患者への説明と教育の質を向上させるためには 5 患者の多様性に対応する力を確かなものするためには 6 医療面接の記録の質を高めるためには		6
	単元6 面接の記録（施術録）の質を高めるために 1 施術録の内容面の課題を解決するプロセスを身に付けるためには 2 施術後の記録から学ぶ方法を身に付けるためには		2
	解答解説		1
	後期のまとめ 学んだことを振り返って伝えよう		1
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	前期後期とも、学習の段階に応じて提出を求めるリフレクションの内容と学科試験を総合して評価します。 前期・後期の期末評価の平均点をもって学年末評価とします。		
履修上の留意点	○授業中に確認したポイントは、復習のプリント等を活用して整理しておくこと。 ○施術者として、「患者中心の医療」を実現し、患者を一人の人間としてトータルで理解するために医療面接の能力を高める必要があることを理解する。したがって信頼される施術者となる心構えをもって授業に臨むこと。		
自己学習の進め方	科目の到達目標を意識した学習を進めるために、臨床実習における問題点をどのように解決すべきかを、他の科目での学習もふまえて、学習内容を確かに身に付けるように復習を着実に行うことが求められます。		
使用教科書	丹澤章八編著、鍼灸臨床における医療面接、医道の日本社、2002		
参考書/参考資料	1）丹澤章八編著、改訂版鍼灸臨床における医療面接、医道の日本社、2019 2）つくば言語技術教育研究所資料（三森ゆりか著）		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	社会科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1 年	
担当教官名	石塚聡	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	政治学、行政学、法学および社会学	
到達目標	(1) 公共的な空間における基本原理を学ぶことによって、日本の政治と行政を理解すること。 (2) 政治や行政にかかわる具体的な学ぶことによって、現実の政治メカニズムを理解すること。 (3) 社会の中の様々な事件、事象を把握すること。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：15時間
	1、政治と行政を考える 行政とはなにか なぜ行政は必要か 行政の捉え方	5
	2、政府の役割 官僚制度 福祉国家	5
	3、地方自治 地方自治の本旨 参加と分権	5

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：15時間
	1、法とは何か 人権の歴史 権力分立		5
	2、基本的人権 自由権 社会権 参政権その他		5
	3、人身の自由 身体的自由権とは 刑事司法		5
実務経験の有無 その活かし方	有	国会議員政策秘書	
成績評価の方法	立法院の仕事にかかわった経験を活かし、具体的な事例を挙げながら授業を進めます。		
履修上の留意点	履修前に時事問題の基礎知識を調べておいてほしい。		
自己学習の進め方	履修前に時事問題の基礎知識を調べておいてほしい。		
使用教科書	なし		
参考書/参考資料	『行政学の基礎』（一芸社）『はじめての行政学』（有斐閣）『憲法』弘文堂		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	自然科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1 年	
担当教官名	漆畑和美	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1. 細胞に関する基本的な概念と細胞小器官の機能について学びます。 2. 生体構成成分とその機能について学びます。	
到達目標	1. 人体を構成する基本単位である細胞に関する基本的な概念と細胞小器官の機能について説明できること。 2. 生体を構成する成分とそのはたらきを説明すること。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：15時間
	ガイダンス	1
	細胞と生物の連続	
	1. 細胞の発見及び細胞説	4
	2. 細胞小器官の構造とその機能	6
	①核（染色体と核小体）②小胞体（粗面小胞体・滑面小胞体）③ミトコンドリア ④リソソーム⑤ゴルジ装置⑥中心体⑦細胞骨格	
	3. 細胞膜の構造と機能	2
	4. 上皮組織の機能的分類	1
	前期のまとめ	1

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：15時間
	1．生体内に存在する物質の生化学的な概要と機能 ①糖質②脂質③タンパク質・アミノ酸④核酸（DNA・RNA）・ATP ⑤ミネラル⑥ビタミン⑦水		8
	2．機能性タンパク質について		3
	3．好気呼吸・嫌気呼吸		3
	後期のまとめ		1
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末成績とします（少数点以下は切り捨て）。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は理療教育実施細則の規定より欠席扱いとなりますが、30分未満でも積極的な授業参加を期待します。		
自己学習の進め方	講義は事前に配布する資料を用いてすすめます。必ず資料を読んで、講義内容を把握して講義に臨んでください。 講義後は、履修した内容に関連する理療の科目の内容も含めて理解に努めてください。自己学習時、理解ができないところがあれば、次の講義までに質問してください。		
使用教科書	教科書はありませんが、教科書の代わりとなる資料を配付します。		
参考書/参考資料	休み時間の生物学（講談社朝倉幹晴著2013年）　これだけ生化学（秀和システム　生化学若い研究者の会著2014年）　ていねいな生物学（羊土社白戸亮吉他著2021年）		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	保健体育	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	江黒直樹	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	運動・スポーツに関わる基本的な知識と技術について学びます。また体力測定を通じて自身の現状を理解し、自身で改善できる力を養います。	
到達目標	1. 施術者として必要な健康・安全や身体運動について学習し、健康の維持増進のための運動を実践し、これを施術に応用する能力と態度を習得できる。 2. 工夫された教材（用具等）を活用して身体を動かす楽しさや心地よさが習得できる。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：15時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 体力測定・評価	2
	3. ロコモティブシンドローム測定	1
	4. ストレッチ体操	2
	5. 基礎運動Ⅰ、陸上（歩行）、持久力	5
	6. 体育祭練習	4

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：15時間
	7. 視覚障がい者スポーツI（サウンドテーブルテニス）		4
	8. 障がい者スポーツ I（ボッチャ）		3
	9. 視覚障がい者スポーツII（ゴールボール）		4
	10. 視覚障がい者スポーツIII（ブラインドサッカー）		3
	11. 講話（パラリンピックについて）		1
実務経験の有無 その活かし方	有	上級障がい者スポーツ指導員、障がい者スポーツコーチ	
成績評価の方法	障がい者施設でのスポーツ・トレーニング指導を活かし、1年次履修科目に関連する知識の幅を広げます。		
履修上の留意点	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。自己の能力に応じた取り組み、各種目の特性ルールを理解し、平常授業で観察記録法により評価すると共にレポートを加味して評価します。		
自己学習の進め方	中間試験は行いません。 天候により使用する体育施設を変更する場合があります。		
使用教科書	なし（必要に応じて資料等を配布します）		
参考書/参考資料	競技規則集。競技規則の解説。視覚障害者のためのスポーツ指導、障がい者スポーツ指導教本		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	解剖学 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	鳥丸大地 牧邦子	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	骨格系、筋系、神経系及び基礎運動学の概要について、模型及び体表観察を加えて、人体の構造を各系統別に学びます。	
到達目標	1. 骨格系、筋系、神経系の位置・形態・構造を理解して、人体や模型上で確認できる。 2. それらの運動の仕組みについて説明できること。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：60時間
	導入：解剖学 I の年間計画や評価について	1
	(1) 解剖学の基礎	
	ア 解剖学の意義と分類 人体の構成	1
	イ 解剖学的用語 人体の方向と運動	2
	(2) 運動器系①骨格系	
	ア 骨の一般	2
	イ 脊 柱	8
	ウ 胸 郭	2
	エ 上肢の骨：上肢帯 上腕骨 前腕の骨 手の骨	8
	オ 下肢の骨：下肢帯 骨盤 大腿骨 下腿の骨 足の骨	8
	カ 頭 蓋：脳頭蓋 顔面頭蓋	8
	キ 人体各部の主要関節：関節の構造	3
	ク 各関節の運動：関節の運動	3
	(3) 運動器系②筋系	
	ア 筋の一般	2
	イ 胸 筋：浅胸筋 深胸筋 横隔膜	4
	ウ 腹 筋：前腹筋 側腹筋 後腹筋	2
	エ 背 筋：浅背筋 深背筋	4
	形成的評価（講評を含む）	2

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：60時間
	（3）運動器系 ②筋系		
	カ	上肢の筋：上肢帯筋 上腕筋群 前腕筋群 手の筋	8
	キ	下肢の筋：下肢帯筋 大腿筋群 下腿筋群 足の筋	8
	ク	頭部の筋：表情筋 咀嚼筋	4
	ケ	頸筋：胸鎖乳突筋 斜角筋	4
	（4）神経系		
	ア	神経系の構成	2
	イ	中枢神経系：脳 脊髄	12
	ウ	末梢神経系：脳神経 脊髄神経 自律神経	12
エ	伝導路：下行性伝導路（錐体路、錐体外路）、上行性伝導路（感覚・特殊感覚）	8	
	形成的評価（講評を含む）		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 原則、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。		
自己学習の進め方	復習の時間を設け、既習した内容を振り返り、自己の学習状況の確認を行いながら進めてください。		
使用教科書	人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療科教科用図書編纂委員会編		
参考書/参考資料			

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	解剖学Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	鳥丸大地 山田忠	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	胸腹部及び骨盤部の内臓器、感覚器系、内分泌系について、模型及び体表観察を加えて、人体の構造を系統的に学びます。	
到達目標	1. 各内臓器、感覚器の位置・形態・構造を理解し、人体や模型上で確認できる。 2. それらの働きの概要について説明できる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	導入：解剖学Ⅱの年間計画や評価について	1
	(1) 解剖学の基礎	
	ア 人体の構成	6
	(2) 内臓系	
	ア 内臓の一般構造	4
	イ 消化器系	12
	ウ 呼吸器系	10
	エ 泌尿器系	10
	形成的評価（講評を含む）	2

後期授業計画	後期計 （ 15週）		後期計：45時間
	オ 生殖器系		6
	カ 内分泌系		3
	（3）脈管系		12
	ア 血管系		
	イ リンパ系		4
	（4）感覚器系		
	ア 視覚器		6
	イ 平衡聴覚器		6
	ウ 味覚器		2
	エ 嗅覚器		2
	オ 皮 膚		2
	形成的評価（講評を含む）		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 原則、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。		
自己学習の進め方	復習の時間を設け、既習した内容を振り返り、自己の学習状況の確認を行いながら進めてください。		
使用教科書	人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療科教科用図書編纂委員会編		
参考書/参考資料			

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	生理学 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1 年	
担当教官名	山本浩二	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術に必要な人体の機能を理解し、病態生理の理解に必要とされる基本的な知識を学びます。 生理学 I では生理学の基礎、循環、呼吸、消化・吸収、代謝、体温、排泄について学びます。	
到達目標	細胞内器官の基本的な生理作用を説明できる。 血液と循環システムの基本的な生理作用を説明できる。 呼吸の基本的な生理作用を説明できる。 消化・吸収と代謝の基本的な生理作用を説明できる。 体温調節の基本的な生理作用を説明できる。 排泄の基本的な生理作用を説明できる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	ガイダンス (授業計画、評価)	1
	第1章 生理学の基礎	5
	第2章 循環	14
	第3章 呼吸	7
	前期のまとめ	1
	形成的評価 (講評を含む)	2

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：30時間
	第4章 消化と吸収		12
	第5章 代謝		4
	第6章 体温		3
	第7章 排泄		7
	後期のまとめ		2
	形成的評価（講評を含む）		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。		
自己学習の進め方	毎回の授業の要点を必ず復習し、次の授業に望むようにして下さい。また、問題集を配布しますので、各自取組んで下さい。 解剖学と生理学を結びつけて学習し、理解を深めることが重要です。		
使用教科書	人体の構造と機能 生理学（改訂第3版）		
参考書/参考資料			

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	医療概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1 年	
担当教官名	島田光朗	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	現代の医療制度と社会保障制度の基礎的知識、社会性豊かな施術者としての心構えや職業倫理や生命倫理について学びます。	
到達目標	現代医療の課題について述べることができる。 医療制度や社会保障制度について説明することができる。 最新の統計情報を取り扱うことができる。 施術者としての倫理（職業倫理）を身につけることができる。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：15時間
	1. ガイダンス（授業計画・評価）	1
	2. 医療倫理	
	（1）医療倫理・医療教育の倫理	4
	（2）施術者としての職業倫理	3
	3. 社会保障制度	
	（1）介護サービス行政	2
	（2）医療保障	2
	（3）医療保険の仕組み	2
	（4）公費負担医療	1

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：15時間
	4．現代医学と医療		
	（1）近代医学の特徴		2
	（2）医療と社会		2
	（3）医療経済		2
	（4）医療従事者		2
	（5）医療・福祉施設		3
	6．医学史・参考データ・国家試験過去問等		4
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 原則、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。		
自己学習の進め方	医療制度や社会保障制度についてニュースなどを聞くように心がけてください。国家試験の問題演習は事前に解答してください。		
使用教科書	医療と社会 改訂第8版		
参考書/参考資料			

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学概論 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1 年	
担当教官名	島田光朗	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	東洋医学の意義・基礎理論・生理観・病の原因について学習します。	
到達目標	1. 東洋医学の意義を理解し、説明できる。 2. 陰陽・五行の概念を理解し、説明できる。 3. 陰陽・五行に関する法則性を理解し、説明できる。 4. 気・血・津液・精・神・臓腑の生理を理解し、説明できる。 5. 病因（内因、外因、不内外因、三毒説）を理解し、説明できる。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：30時間
	ガイダンス（年間計画、評価について）	1
	1 東洋医学の基礎理論	
	1. 東洋医学の意義と沿革	5
	2. 陰陽論（陰陽の概念と相互の関係性）	4
	3. 五行説（五行の概念と相互の関係性、五行の色体表）	6
	2 東洋医学の生理観	
	1. 気・血・津液・精・神の生理	13
	前期のまとめ	1

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：30時間
	2 東洋医学の生理観（続き）		
	2. 蔵象		
	臓腑の概要		1
	各臓腑の位置・形状・生理作用		10
	奇恒の腑		2
	臓腑間の関係性		2
	機気と臓腑の作用		2
	3 東洋医学の疾病観		
	1. 病因論（内因・外因・不内外因・三毒説）		12
後期のまとめ		1	
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 原則、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。		
自己学習の進め方	利用者の皆さんには復習を中心にした学習習慣の形成を期待します。 専門用語や概念など記憶すべき内容が多いです。何度も振り返り学習するよう心がけてください。		
使用教科書	日本理療科教員連盟教科書委員会編　オリエンス研究会著　『基礎理療学Ⅰ（東洋医学概論）改訂第8版』		
参考書/参考資料	公益法人　東洋療法学校協会編　教科書検討委員会著　新版　東洋医学概論		

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	経絡経穴概論 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1 年	
担当教官名	山中美智	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	経絡経穴の基礎と知識、十四経脈の流注、それに所属する経穴の名称・部位・取穴・解剖及び要穴について学びます。	
到達目標	1. 経絡経穴をわかりやすく説明できる。 2. 十二経の名称が順番通り言える。 3. 十四経に所属する経穴名が順番通り言える。 4. 各経絡の流注が言え、それに所属する各経穴の部位・取穴・解剖が言える。 5. 肺経から肝経の要穴（五要穴・五行穴）が言える。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	ガイダンス（年間計画、評価について）	1
	経絡経穴の基礎	
	1. 経絡経穴の誕生	1
	2. 臓腑の概要及び経絡との関係	1
	3. 経穴の取り方（骨度法・同身寸法など）	2
	4. 経絡経穴の理解に必要な用語	1
	十四経脈とその経穴	
	1. 督脈	6
	2. 任脈	6
	3. 肺経	4
	4. 大腸経	6
	5. 胃経	12
	6. 脾経	5
	前期のまとめ	

後期授業計画	後期計　（ 15週）		後期計：45時間
	十四経脈とその経穴		
	7．心経		3
	8．小腸経		4
	9．膀胱経		12
	1 0．腎経		6
	1 1．心包経		3
	1 2．三焦経		4
	1 3．胆経		5
	1 4．肝経		5
	後期のまとめ		3
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。期末試験の評価は経穴の暗唱による評価も加味します。なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 原則、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。		
自己学習の進め方	経穴の暗唱をしてもらいますが、ただ覚えるだけでなく解剖学で学ぶ筋肉や神経なども併せて学習してください。経絡の流れ、経穴の場所を覚えるため、または取穴するために必要な知識となりますので、他科目と並行して自己学習してください。		
使用教科書	新版経絡経穴概論　日本理療科教員連盟　社団法人東洋療法学校協会編		
参考書/参考資料	『経絡経穴概論　改訂版』　全国盲学校長会編　大阪市立盲学校理療科研究部著		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	山田 忠 吉野 徹也	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	あん摩の基本七手技を修得し、これらを適宜組合せて、座位、側臥位、腹臥位等の患者の各姿勢や各種病態に応じて適切且安全に施術ができるように学習します。	
到達目標	(1) 身だしなみに気をつけて参加することができる。 (2) あん摩の基本手技を用いて適切に施術することができる。 (3) 姿勢等を意識し適切な加圧で施術することができる。 (4) 施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。 (5) 施術に必要な触察と位置確認ができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：60時間
	1 ガイダンス (年間計画、評価について) シラバスの説明、衛生管理、接遇、授業中のルール、使用実技室の環境確認等	2
	1 基本 7 手技の紹介 軽擦法、揉捏法、圧迫法、運動法、叩打法、振せん法、曲手	10
	2 座位におけるあん摩施術 肩上部 肩甲間部 肩甲骨部	12
	3 腹臥位におけるあん摩施術 肩背腰部 殿部・下肢 肩上部	30
	前期のまとめ	6

後期授業計画	後期計　（ 15週）		後期計：60時間
	4	側臥位におけるあん摩施術 肩上部 肩背腰部 肩甲骨部	28
	5	側臥位におけるあん摩施術 上肢 殿部 下肢 頸部・頭部	26
		後期のまとめ	6
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
成績評価の方法	施術所での実務経験を活かし、施術者として必要な知識と態度を理解すると共に、実際の臨床現場の話をする事により、施術のイメージを確立できるようにします。		
履修上の留意点	授業毎に基本手技の練習を行い、技術の習得度を確認します。実技室以外では施術を行わないこと。		
自己学習の進め方	履修した内容を自身の下肢などに対して可能な限り練習します。「あん摩練習会」が開催された際は、それに参加することをお勧めします。授業進行に伴い、解剖学、経穴の知識が必要になります。使用経穴や施術する部位に対応した筋や神経、関節など、適宜予習や復習を行ってください。		
使用教科書	手技療法の基礎と臨床　岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	自作術式集		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	山中美智 高橋忠庸	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	マッサージの基礎を実技練習により学習します。実技練習は利用者同士でペアになって行い、パウダーを使用した身体各部へのマッサージ施術をします。	
到達目標	(1) 身だしなみに気をつけて参加することができる。 (2) マッサージの基本手技を用いて適切に施術することができる。 (3) 姿勢等を意識し適切な加圧で施術することができる。 (4) 施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。 (5) 施術に必要な触察と位置確認ができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	1. ガイダンス (年間計画、評価について、実技室使用方法、衛生・リスク管理、身だしなみ、施術用具の取扱い)	2
	2. 肢位、人体の区分、方向、面、マッサージの基本手技の説明	2
	3. 身体各部への施術	
	(1) 前腕のマッサージ	10
	(2) 下腿のマッサージ	8
	(3) 手関節のマッサージ	6
	前期のまとめ	2

後期授業計画	後期計　（ 15週）		後期計：30時間
	3. 身体各部への施術		
	（4）足関節マッサージ		6
	（5）膝関節マッサージ		8
	（6）肩関節マッサージ		8
	（7）頭部マッサージ		4
	後期のまとめ		4
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
成績評価の方法	施術所での実務経験を活かし、施術者として必要な知識と態度を理解すると共に、実際の臨床現場の話をする事により、施術のイメージを確立できるようにします。		
履修上の留意点	年間を通して積極的に授業に参加し、施術者としての態度を学んでください。		
自己学習の進め方	1. 日常的に手指の手入れを行ってください。 2. 施術部位の筋や骨など解剖学的特徴を復習してください。		
使用教科書	手技療法の基礎と臨床（岡山ライトハウス）		
参考書/参考資料	人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療科用教科用図書編纂委員会編		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅲ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	高橋清志 小泉貴	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	指圧実技に関する基礎的な知識と施術リスクについて理解し、適切かつ効果的な指圧施術を行う能力と技術を修得します。	
到達目標	(1) 身だしなみに気をつけて参加することができる。 (2) 指圧の基本手技を用いて適切に施術することができる。 (3) 適切な姿勢等を意識し適切な加圧で施術することができる。 (4) 施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。 (5) 施術に必要な触察と位置確認ができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	1. ガイダンス (授業計画・評価)	1
	2. 身体各部への施術 指圧の基礎・基本手技	5
	背腰部の指圧	16
	臀部の指圧	6
	3. 前期のまとめ	2

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：30時間
	2. 身体各部への施術（続き）		
	下肢の指圧（伏臥位）		8
	頭頸部の指圧		5
	腹部の指圧		5
	上肢の指圧		6
	下肢の指圧（仰臥位）		4
	4. 後期のまとめ		2
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
成績評価の方法	施術所での実務経験を活かし、施術者として必要な知識と態度を理解すると共に、実際の臨床に向けた施術方法を習得することにより、自分自身の施術が確立できるようにします。		
履修上の留意点	実技参加にあたっては、事前に清潔な白衣の準備や爪切り、実習中のマスク着用を求めます。		
自己学習の進め方	授業前に必ず術式確認の予習を行い、授業中は技術訓練に集中できるよう準備してください。解剖学など他科目における履修内容を関連付けて振り返ることを心がけてください。授業中に修正を指導された箇所は特に反復練習を行ってください。		
使用教科書	手技療法の基礎と臨床（岡山ライトハウス）		
参考書/参考資料	よくわかる指圧テクニック（岡本雅典）、指圧（増永静人）		

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう基礎実習Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	加藤 麦 山中美智	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	衛生操作、用具の取扱い、施術の流れ、生体観察の基本、主な経穴の取穴等、鍼施術の基礎と安全動作を学習します。	
到達目標	(1) 身だしなみに気をつけて参加することができる。 (2) 刺鍼の基本操作を正確かつ安全に行うことができる。 (3) 押手を安定させ直刺ができる。 (4) 一定時間内に身体各部位（経穴）への刺鍼ができる。 (5) 手順（動作）に無駄がなく、適切に器具を取り扱うことができる。 (6) 鍼施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：45時間
	1. ガイダンス（年間授業計画、必要用具、評価についての説明）	2
	2. 実技室の使い方、手洗い・手指消毒法、実技における諸注意	2
	3. 揉捏、押手、留管、弾入	2
	4. 両手挿管	2
	5. 片手挿管	4
	6. 銀鍼による刺鍼練習器への刺鍼	7
	* 寸3-3番鍼から始め、寸3-2番、寸6-3番、寸6-2番と移行する。	
	7. 皮膚消毒、オートクレーブ	2
	8. 自分の下肢への刺鍼練習	2
	9. 利用者同士で刺鍼練習を行う際の諸注意	3
	10. 利用者同士で下腿への刺鍼練習	3
	11. 下腿の主な経穴への刺鍼練習	12
	12. 前腕部の主な経穴への刺鍼練習	4

後期授業計画	後期計 （ 15週）		後期計：45時間
	1．腰部の主な経穴への刺鍼練習		18
	2．背部の主な経穴への刺鍼練習		5
	3．指サック、グローブを装着した刺鍼体験		2
	4．頸部の主な経穴への刺鍼練習		5
	5．肩部の主な経穴への刺鍼練習		4
	6．胸腹部の主な経穴への刺鍼練習		3
	7．顔面部の主な経穴への刺鍼練習		3
	8．膝関節周囲の主な経穴への刺鍼練習		3
	9．頭部の主な経穴への刺鍼練習		2
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	施術所での実務経験を活かし、施術者として必要な知識と態度を理解すると共に、実際の臨床に向けた施術方法を習得することにより、自分自身の施術が確立できるようにします。		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。複数教官により評価を行います。		
履修上の留意点	実技科目のため再評価試験は実施しません。また実技科目は単位修得率100%でないと進級できないので注意してください。 実技室以外では鍼を扱わないでください。 実習中に不明な点やトラブル等が発生した場合は、自分で判断せず必ず教官に報告し、指示を仰ぐようにしてください。 授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することもあります。 習熟度によって利用者ごとに実習内容が異なる場合もあります。		
自己学習の進め方	授業進行に伴い、解剖学と経絡経穴学の知識が必要になります。授業で使用する経穴の部位や刺鍼する部位の解剖学的構造など、適宜予習や復習を行ってください。		
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	新版 経絡経穴概論		

令和８年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう基礎実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	麻生弘樹 水沼健生	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	灸施術を行う上で必要な基礎的知識と安全で正確な施灸操作を学びます。	
到達目標	(1) 身だしなみに気をつけて参加することができる。 (2) 施灸の基本操作を正確かつ安全に行うことができる。 (3) 決められた大きさと形で艾炷を作成できる。 (4) 一定時間内に定められた部位（経穴）への施灸ができる。 (5) 手順（動作）に無駄がなく、適切に器具を取り扱うことができる。 (6) 灸施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：30時間
	1. ガイダンス（年間授業計画、評価、必要用具、身だしなみについての説明）	1
	2. 実技室の環境認知・使い方、手洗い、廃棄物の処理及び清掃について	1
	3. 灸についての基礎知識の習得と、施灸体験	2
	4. 点火器具の操作法	2
	5. 艾の鑑別、過誤やリスクについて	4
	6. 母指頭大、中指頭大、小指頭大の艾炷作成及び点火	18
	7. 前期のまとめ	2

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：30時間
	1．米粒大の艾炷作成		8
	2．台座灸の操作		10
	3．温灸器具を用いた施灸法		5
	4．施灸による全身調整法		2
	5．その他灸法の施灸法（隔物灸等）		4
	6．後期のまとめ		1
実務経験の有無 その活かし方	有	はり師、きゅう師	
成績評価の方法	施術所での実務経験を活かし、施術者として必要な知識と態度を理解すると共に、実際の臨床に向けた施術方法を習得することにより、自分自身の施術が確立できるようにします。		
履修上の留意点	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。複数教官により評価を行います。		
自己学習の進め方	自室等での練習については火を使用した練習はしないようにしてください。 利用者同士の施灸にあたって、十分安全に注意するとともに、担当教官の監督の下で行ってください。		
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	はりきゅう基礎実習Ⅱ 教官用指導マニュアル		

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	人文科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	小清水裕子	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義（演習を含む）	
科目の概要 (授業科目の内容)	対人コミュニケーションにおいて必要とされる知識に基づいて、医療面接の実際を体験的に学習することを通して、臨床場面における理療者に求められるコミュニケーション能力を身に付けることを目指す科目です。	
到達目標	医療面接に必要なコミュニケーションの方法についての知識をもとに、理療者に求められる医療面接の基礎を習得します。	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：15時間
	単元1 医療面接とコミュニケーションの基礎	
	1 オリエンテーション 学修のゴールと医療面接の実際	1
	2 医療面接とはなにか	2
	3 医療面接とコミュニケーション	2
	4 情報活用のスキルとモラル	1
	単元2 医療面接を理解する	
	1 東洋医学における医療面接	2
	2 医療面接の流れ	2
	単元3 医療面接の実際（1）	
	1 医療面接の準備	1
	2 医療面接の導入部	1
	3 医療面接の実際	2
	前期のまとめ 学修したことを振り返り伝え合う	1

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：15時間
	単元3 医療面接の実際（2）		
	1 質問の方法		2
	2 対話の技法		2
	3 患者の解釈モデル		2
	4 患者への説明と教育		2
	5 特性に応じた面接		2
	6 医療面接の実際と記録		4
	後期のまとめ 学修したことを振り返り伝え合う		1
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。学習の段階に応じて提出を求める振り返り(レポート)と学科試験を総合して評価します。後期についても、振り返り(レポート)と学科試験を基本としますが、臨床実習前試験の内容も加味して評価します。		
履修上の留意点	医療面接の臨床の場での実践におけるコミュニケーション能力を充実させるために、理論を理解し、理論に基づく実践に繋がるように学修する事に留意する。また、医療面接の場面を想定した面接のシミュレーション（演習）では、コミュニケーション能力の具体的なスキルアップを目指し、理論で学修した内容が十分に生かせるように留意すること。		
自己学習の進め方	科目の到達目標を目指して、他の科目との関連を意識しつつ、それぞれの単元の学習内容を確かに身に付けることができるように復習を着実に行うことが求められます。		
使用教科書	丹澤章八編著、鍼灸臨床における医療面接、医道の日本社、2002		
参考書/参考資料	丹澤章八編著、改訂版鍼灸臨床における医療面接、医道の日本社、2019		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	社会科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2 年	
担当教官名	石塚聡	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	政治学、行政学、法学および社会学	
到達目標	(1) 公共的な空間における基本原理を学ぶことによって、日本の政治と行政を理解すること。(2) 政治や行政にかかわる具体的な学ぶことによって、現実の政治メカニズムを理解すること。(3) 社会の中の様々な事件、事象を把握すること。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：15時間
	1. 政治と行政を考える 行政とは何か 行政の捉え方 官僚制度	5
	2. 政府の役割と責任 行政国家、福祉国家 行政改革	5
	3. 国と自治体の仕組み 地方自治 地方分権、住民参加	5

後期授業計画	後期計　（ 15週）		後期計：15時間
	1．国を動かす仕組み 執政制度 官僚制度		5
	2．基本的人権 自由権 社会権 参政権、その他の権利		5
	3．人身の自由 身体的自由権とは 刑事司法		5
実務経験の有無 その活かし方	有	国会議員政策秘書	
成績評価の方法	立法院の仕事にかかわった経験を活かし、具体的な事例を挙げながら授業を進める。		
履修上の留意点	履修前に時事問題の基礎知識を調べておいてほしい。		
自己学習の進め方	履修前に時事問題の基礎知識を調べておいてほしい。		
使用教科書	なし		
参考書/参考資料	『Q&Aで学ぶ憲法入門』（恒春閣）『はじめての行政学』（有斐閣）『憲法』弘文堂		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	自然科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2 年	
担当教官名	漆畑和美	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1. 遺伝について基本的な概念（メンデルの法則など）を学びます。 2. 免疫について基本的概念を学びます。	
到達目標	1. 遺伝の法則を理解し、説明できること。 2. 生体防御の仕組みを理解し、説明できること。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：15時間
	ガイダンス	1
	1. 遺伝について（概論）メンデルの法則など	2
	2. 遺伝のしくみ ①血液型の遺伝②顕性/潜性遺伝③X連鎖遺伝④母系遺伝⑤多因子遺伝	6
	3. 染色体異常（連鎖と染色体異常）	2
	4. 細胞分裂（体細胞分裂、減数分裂）	3
	前期のまとめ	1

	後期計 (15週)		後期計：15時間
	1. 生物「免疫について」 ①免疫のシステム ②獲得免疫（細胞性免疫、体液性免疫） ③免疫と健康 2. 生体防御のしくみ ①免疫グロブリン ②アレルギー ③感染症について ④予防接種 後期のまとめ		 1 2 2 2 3 3 1 1
後期授業計画	無		
	実務経験の有無 その活かし方		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は理療教育実施細則の規定より欠席扱いとなりますが、30分未満でも積極的な授業参加を期待します。		
自己学習の進め方	講義は事前に配布する資料を用いてすすめます。必ず資料を読んで、講義内容を把握して講義に臨んでください。 講義後は、履修した内容に関連する理療の科目の内容も含めて理解に努めてください。自己学習時、理解ができないところがあれば、次の講義までに質問してください。		
使用教科書	教科書はありませんが、教科書の代わりとなる資料を配付します。		
参考書/参考資料	休み時間の生物学（講談社朝倉幹晴著2013年）		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	保健体育	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2 年	
担当教官名	江黒直樹	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	運動・スポーツに関わる基本的な知識と技術について学びます。また体力測定を通じて自身の現状を理解し、自身で改善できるようになります。	
到達目標	1. 施術者として必要な健康・安全や身体運動について学習し、健康の維持増進のための運動を実践し、これを施術に応用する能力と態度を習得できる。 2. 工夫された教材（用具等）を活用して身体を動かす楽しさや心地よさが習得できる。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：15時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 体力測定・評価	2
	3. ロコモティブシンドローム測定	1
	4. 体育祭練習	3
	5. 基礎運動Ⅰ、陸上（歩行）	4
	6. 視覚障がい者スポーツⅠ（サウンドテーブルテニス）	4

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：15時間
	7．障がい者スポーツⅠ（ボッチャ）		3
	8．視覚障がい者スポーツⅡ（ゴールボール）		3
	9．視覚障がい者スポーツⅢ（ブラインドサッカー）		3
	10．レクリエーションスポーツⅠ（ゴルフ系）		3
	11．レクリエーションスポーツⅡ（フリスビー）		3
実務経験の有無 その活かし方	有	上級障がい者スポーツ指導員、障がい者スポーツコーチ	
成績評価の方法	障がい者施設でのスポーツ・トレーニング指導を活かし、2年次履修科目に関連する知識の幅を広げます。		
履修上の留意点	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。自己の能力に応じた取り組み、各種目の特性ルールを理解し、平常授業で観察記録法により評価すると共にレポートを加味して評価します。		
自己学習の進め方	中間試験は行いません。 天候により使用する体育施設を変更する場合があります。		
使用教科書	なし。（必要に応じて資料等を配布します）		
参考書/参考資料	競技規則集。競技規則の解説。視覚障害者のためのスポーツ指導、障がい者スポーツ指導教本		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	生理学Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2 年	
担当教官名	山田 忠	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	人体の生理機能に関する基本事項のうち、内分泌系、生殖器系、神経系、運動器系、感覚器系、生体の防御機構について学習し、これを施術に応用する能力と態度を修得します。	
到達目標	ホルモンの基本的な生理作用と分泌調節を説明できる。生殖機能の特徴と成長期・老年期の特徴を説明できる。ニューロンの特徴と神経系の基本的な生理作用を説明できる。筋収縮の性質や仕組みを説明できる。身体運動の基本的な調節機構を説明できる。各感覚の特徴、受容の仕組み、伝導路を説明できる。免疫系の基本的な仕組みを説明できる。環境適応やホメオスタシス調節機構について説明できる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	ガイダンス (授業計画・評価)	1
	第8章 内分泌	12
	第9章 生殖・成長と老化	7
	第10章 神経	22
	前期の復習	3

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：45時間
	第11章 筋		8
	第12章 運動		12
	第13章 感覚		14
	第14章 生体の防御機構		6
	第15章 身体運動の協調		2
	後期の復習		3
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 単元ごとに資料を事前配布するので、予習・復習に活用してください。 過去の国家試験頻出ポイントに重点を置いて授業を進めます。 国家試験で重要となるポイントはその都度指示するのでしっかり押さえてください。 あはき臨床で必要となる知識についても随時紹介します。		
自己学習の進め方	配付資料を基に授業の復習をしてください。人体の構造を理解していないと機能を理解することはできないので、解剖学で学んだ構造の知識が生理学のベースとなります。解剖学と生理学を結びつけて学習するよう心がけてください。また、臨床医学総論や理療臨床医学各論で学ぶ知識とも関連するので、基礎医学と臨床医学を結びつけることで病態把握の理解を深めましょう。		
使用教科書	人体の構造と機能 生理学 改訂第3版 医歯薬出版		
参考書/参考資料	からだが見える人体の構造と機能（MEDIC MEDIA）、人体の正常構造と機能（日本医事新報社）		

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	病理学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2 年	
担当教官名	水沼健生	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	疾病の原因や疾病によって現れる症状と生体の反応を学習します。	
到達目標	・病気の原因や発生機序を理解する。 ・病変（循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、腫瘍等）の違いと特性を理解する ・人体の変化から病因や経過、予後について推測できる。 ・上記を理解することで基礎医学と臨床医学の繋がりを強化する。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：30時間
	1. ガイダンス（授業の進め方、評価方法等）	1
	第1編 病理学の基礎	6
	（1）疾病の定義と分類	
	1）健康・疾病及び半健康状態	
前期授業計画	2）疾病の分類・病変と症状・疾病の経過・予後と転帰	
	第2編 病因	8
	1）病因の一般	
	2）内因・外因	
	3）発生発育とその異常・多遺伝子疾患	
前期授業計画	4）加齢・老化、小児疾患	
	第3編 細胞の障害と修復	8
	1）退行性病変、萎縮・変性・壊死及び死	
	2）進行性病変、肥大・増殖・異型増殖・再生・化生・異物処理	
	創傷の治癒	
前期授業計画	第4編 循環障害	7
	1）人の循環系	
	2）充血・うっ血・虚血・出血	

後期授業計画	後期計　（ 15週）		後期計：30時間
	3）血栓症・塞栓症・梗塞 4）側副循環 5）浮腫・水腫 6）全身循環障害、高血圧・心不全・ショック		7
	第5編　炎症 1）炎症の一般・原因・経過・メカニズム・全身症状 2）炎症の分類		8
	第6編　免疫異常 1）免疫の基礎 2）アレルギー反応・免疫寛容と自己免疫・免疫不全、移植		7
	第7編　腫瘍 1）腫瘍の一般 2）発がん理論 3）腫瘍の分類 4）癌患者をめぐって		8
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。 なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 原則、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。		
自己学習の進め方	授業時に確認した病理学の基本的事項を復習し、病理学用語をまとめたノートを作成するよう心がけましょう。		
使用教科書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ（病理学概論）改訂第7版第1巻　岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	人体の構造と機能（解剖学）（生理学）、病気がみえるvol7.11		

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床医学総論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	加藤麦	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	診察の方法（医療面接、全身の診察、局所の診察、神経系の診察、運動機能検査、徒手検査法）、臨床検査法（尿検査、血液検査）、治療法、臨床心理を学びます。	
到達目標	1. 症状の特徴から疾患を想起することができる。 2. 解剖学、生理学、臨床医学各論と関連付けることができる。 3. 得られた情報から適切な徒手検査法を実施することができる。 4. 一般検査・臨床検査を説明することが出来る。	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：45時間
	ガイダンス（授業の進め方、評価方法等）	1
	第1章 診察の基礎	
	第1節 意義	1
	第2節 一般的心得 第3節 診察の内容	2
	第4節 記録の目的と内容	2
	第5節 POS	1
	第6節 関連用語の理解	1
	第2章 診察の方法	
	第1節 医療面接(問診)	6
	第2節～第5節 視診、打診、聴診、触診	12
	第6節 測定法	7
	第7節 神経系の診察	10
	形成的評価（講評を含む）	2

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：45時間
	第2章 診察の方法		
	第8節 その他の身体機能の診察法		15
	第3章 臨床検査法		
	第1節 一般検査		5
	第2節 生化学的検査		5
	第3節 生理学的検査および画像診断の概要		5
	第4章 治療法		
	第1節 治療の意義と分類		2
	第2節 薬物療法		2
	第3節～第5節 食事療法、理学療法、その他の療法		3
	第5章 臨床心理		
	第1節 患者さんの心理		2
	第2節 心理学的検査		2
	第3節 心理療法		2
形成的評価（講評を含む）		2	
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。 なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 過去の国家試験を基に頻出ポイントを重点に置き授業を行います。 重要ポイントは指示するので、適宜チェックをしてください。		
自己学習の進め方	復習の時間を設け、既習した内容を振り返り、自己の学習状況の確認を行いながら進めてください。 また、1年次で学んだ解剖学、生理学の知識を基に、病的な状態を理解することが必要となります。よって、生理学、解剖学の復習を行いながら学習を進めてください。		
使用教科書	生活と疾病Ⅱ 臨床医学総論 第2版 日本理療科教員連盟教科書委員会編		
参考書/参考資料	診察ができるvol.1身体診察、看護がみえるvol.3フィジカルアセスメント いずれもMEDIC MEDIA		

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	理療臨床医学各論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	池田和久	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	あはき臨床で遭遇する頻度の高い整形外科疾患及び神経疾患の病態生理から診断・治療に関する基礎的知識を理解し、あはき臨床における病態把握に必要な知識を学習します。また、精神・心身医学的疾患、救急医学、麻酔科学、小児疾患に関する基礎的知識を理解し、患者対応に必要な知識を学習します。	
到達目標	(1) 運動器疾患の病態生理及び診断、治療について説明できる。 (2) 神経・筋疾患の病態生理及び診断、治療について説明できる。 (3) その他各科の疾患の病態生理及び診断、治療について説明できる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	1. ガイダンス (授業の進め方、評価方法等)	1
	2. 第1章 運動器疾患の病態生理及び診断、治療	38
	3. 前期のまとめ	4
	4. 形成的評価 (講評を含む)	2

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：45時間
	1. 第2章 神経・筋疾患の病態生理及び診断、治療		27
	2. 第13章 精神・心身医学的疾患		6
	3. 第18章 救急医学		4
	4. 第19章 麻酔科学		2
	5. 小児科疾患		2
	6. 後期のまとめ		2
	7. 形成的評価（講評を含む）		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。 なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 国家試験出題基準に記載されている疾患を中心に、過去の国家試験頻出ポイントに重点を置いて授業を進めます。 すべてを暗記に頼ることなく、解剖・生理の知識から病態生理を理解して理論的に疾患を捉えてください。 あはき臨床で必要となる知識についても紹介します。		
自己学習の進め方	疾患の知識を理解するためには正常な人体の構造と機能を知っている必要があります。そのためには解剖学と生理学の知識が必要となるので教科書で復習してください。 また検査や治療に関する知識は臨床医学総論の教科書も参考にしながら学習してください。		
使用教科書	生活と疾病Ⅲ（臨床医学各論）（上・中・下巻） 日本ライトハウス		
参考書/参考資料	人体の構造と機能（解剖学）（生理学）、病気がみえるvol7.11		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学概論Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2 年	
担当教官名	島田光朗	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	東洋医学の臓腑の生理と病理を理解し、東洋医学独特の診察法によって証（治療方針）を導き出せるよう学習する。	
到達目標	1. 各臓腑の生理と病理を理解し、説明できる。 2. 四診法の内容を理解し、活用できる。 3. 証に基づいて適切な治療方針を導き出せる。	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：45時間
	ガイダンス（年間授業内容の説明）	1
	1 気血津液陰陽の病理	16
	2 各臓腑の病理	10
	3 五臓の相互関係（病理）	9
	4 五臓の関連領域の気機	3
	5 経絡病症	3
	前期のまとめ	3

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：45時間
	6	四診 望診法、聞診法、問診法、切診法	12
	7	弁証法 八綱弁証、経絡弁証、六経弁証	12
	8	治療法 鍼灸治療法、湯液治療法、その他の治療法	15
		後期のまとめ	6
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。 なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 国家試験、臨床実習、東洋医学臨床論に関係する大切な科目です。普段から復習やまとめをこころがけ、記憶の定着を目指した学習をしましょう。		
自己学習の進め方	利用者の皆さんには復習を中心にした学習習慣の形成を期待します。 専門用語や概念など記憶すべき内容が多いです。 国家試験の過去の問題を解き、反復学習に努めてください。		
使用教科書	日本理療科教員連盟教科書委員会編　オリエンス研究会著　『基礎理療学Ⅰ（東洋医学概論）改訂第7版』		
参考書/参考資料	公益法人　東洋療法学校協会編　教科書検討委員会著　新版　東洋医学概論		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	経絡経穴概論Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2 年	
担当教官名	山中美智	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	経絡経穴の応用として、十四経脈の流注及び経穴の知識を深めるとともに、要穴、組み合わせ穴、奇経八脈、奇穴、現代的研究といった関連事項を幅広く学びます。	
到達目標	1. 十四経脈の流注とそれに所属する経穴の部位・解剖について説明し、取穴できる。 2. 要穴（五要穴・五行穴・八会穴・八総穴等）について説明し取穴できる。 3. 主な組み合わせ穴について説明し取穴できる。 4. 奇経八脈の流注の概要について説明できる。 5. 主な奇穴について説明し、取穴できる。 6. 経絡経穴の現代的研究成果の概要について説明できる。	
前期授業計画	前期計 （ 15週）	前期計：30時間
	ガイダンス（授業計画、評価）	1
	1 経絡経穴の概要	4
	(1)十二正経	
	2 十四経脈の経穴名と部位	22
	(1)要穴の応用	
	(2)組み合わせ穴	
	前期のまとめ	1
	形成的評価（講評を含む）	2

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：30時間
	1 経絡経穴の概要 ※前期の続き		4
	(2) 奇経八脈		
	3 奇穴		6
	4 経絡経穴の現代的研究		2
	十四経脈のまとめ		14
	後期のまとめ		2
	形成的評価（講評を含む）		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。		
自己学習の進め方	毎回の授業の要点を必ず復習し、次の授業に望むようにして下さい。また、問題集を配布しますので、各自取組んで下さい。 361穴の暗唱は継続して取り組むことが重要です。		
使用教科書	新版経絡経穴概論 日本理療科教員連盟 社団法人東洋療法学校協会編		
参考書/参考資料	『経絡経穴概論 改訂版』 全国盲学校長会 編 大阪市立盲学校理療科研究部著		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2 年	
担当教官名	高橋清志 吉野徹也	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を学習することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を修得します。	
到達目標	1. 医療面接及び身体診察ができる。 2. 所定の時間内で主訴に応じたあん摩の全身施術ができる。 3. 物療機器が安全に取り扱える。 4. あま指施術に関わる衛生管理及びリスク管理ができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：60時間
	1. ガイダンス (指導計画の説明等)	2
	2. 実践的な施術方法	
	(1) 1年次のあん摩施術の基礎の確認	8
	(2) 全身のあん摩施術	20
	3. 臨床入門 (物療機器の操作、臨床実習前施術実技試験への対応含む)	
	(1) リスク管理、患者への対応	2
	(2) 臨床を見据えた応用施術	20
	4. 前期のまとめ	8

後期授業計画	後期計　（ 15週）		後期計：60時間
	5． 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術		
	（1） 運動器系		17
	（2） 呼吸器系・循環器系		10
	6． 臨床入門（臨床実習前施術実技試験への対応を含む）		
	（1） 診察の進め方		12
	（2） 診察から施術の流れ（医療面接・身体診察・施術）		10
	7． 模擬臨床実習		3
	8． 後期のまとめ		8
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
成績評価の方法	治療院での施術経験を活かして、現実の施術機会に用いられる骨系、筋系、神経系のポイントを紹介して、実技科目に応用できる知識を養います。		
履修上の留意点	あん摩マッサージ指圧師としての適正な態度にも配慮します。また、後期に臨床実習前施術実技試験を4時間程度実施します。なお、臨床実習前施術実技試験については法定時間数に記載していません。		
自己学習の進め方	あん摩練習会への参加によって、履修した内容を復習します。また、施術部位の解剖学的特徴を理解し、基本手技および応用手技を正しくかつ安全に行うよう練習します。		
使用教科書	手技療法の基礎と臨床　岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療科用教科用図書編纂委員会編		

令和８年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	２年	
担当教官名	山本浩二 高橋忠庸	
修得単位数	２単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を学習することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を学びます。	
到達目標	(1) 患者を意識した身だしなみ及び接遇に配慮することができる。 (2) 主要な医療面接及び身体診察ができる。 (3) 症状に応じて、あま指施術の手技を選択し施術ができる。 (4) あま指施術に関わる衛生管理及びリスク管理ができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	1. ガイダンス (年間計画、評価について等)	1
	2. 実践的な施術方法 (1年次の基礎の確認)	6
	3. 全身施術の応用	8
	4. 各部位の施術応用 (肩背部、腰部、下肢など)	8
	5. 臨床入門(臨床実習前施術実技試験の医療面接、身体診察を含む)	5
	(1) リスク管理、患者への対応 (2) マッサージ・指圧を含めた施術 6. 前期のまとめ	2

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：30時間
	1．日常遭遇しやすい主な症候、疾患に対する施術 (1)消化器系に対するマッサージ (2)婦人科系に対するマッサージ		8
	2．運動療法		4
	3．臨床入門(臨床実習前施術実技試験の医療面接、身体診察を含む) (1)診察の進め方 (2)診察から施術の流れ（医療面接・身体診察・施術等）		12
	4．模擬臨床		3
	5．後期のまとめ		3
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。複数教官により評価を行います。		
履修上の留意点	あん摩マッサージ指圧師としての適正な態度にも配慮します。また、後期に臨床実習前施術実技試験を2時間程度実施します。なお、臨床実習前施術実技試験については法定時間数に記載していません。		
自己学習の進め方	あん摩練習会への参加によって、履修した内容を復習します。また、施術部位の解剖学的特徴を理解し、基本手技を正しくかつ安全に行うよう練習します。また、施術部位の解剖学的特徴を理解し、応用手技を正しくかつ安全に行うよう練習します。		
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療科用教科用図書編纂委員会編		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう応用実習 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2 年	
担当教官名	小林仁 嶋正明	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を学習します。	
到達目標	1. 施術者としての基本的態度、礼節を身に付ける。 2. 主要な症状・疾患に対して医療面接及び身体診察（現代医学的診察を中心に）ができる。 3. 主要な症状・疾患に対して安全かつ適切、効果的な鍼灸施術（鍼灸施術を中心に）が行えること。 4. 臨床実習に参加できる知識と技術を身に付けること。 5. 鍼灸に関わる過誤・副作用について理解し、衛生管理及びリスク管理を身に付ける。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：60時間
	ガイダンス（年間計画、評価について等）	1
	1. 基礎実技	
	直刺・斜刺・横刺	6
	17手技	6
	2. 西洋医学的診察法に基づいた鍼灸施術	
	(1) 骨盤と腰仙・仙腸関節	8
	(2) 背腰部	8
	(3) 下腿と足関節	4
	(4) 膝関節	4
	(5) 肩関節	4
	(6) 前腕と手関節	4
	(7) 頭頸部	4
	3. 臨床入門(臨床実習前施術実技試験への対応を含む)	8
	(1) 衛生リスク管理、患者への対応	
	(2) 身体診察（触察、知覚検査等）	
	前期のまとめ	3

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：60時間
	4．分野別の治療法 健康医学分野、産業医学分野、スポーツ医学分野、老年医学分野		4
	5．特殊鍼法（小児鍼法、皮内鍼法、灸頭鍼法）		4
	6．日常遭遇しやすい主な疾患や症状に対する診察と施術 (1)運動器系（肩こり、頸肩腕痛、腰下肢痛、肩・膝の関節痛など）		12
	(2)呼吸器・循環器系（咳嗽、高血圧症など）		6
	(3)消化器系（胃炎、便秘、下痢など）		6
	(4)婦人科系（月経異常、更年期障害など）		5
	7．低周波鍼通電療法		8
	8．臨床入門（臨床実習前施術実技試験への対応を含む） (1)診察の進め方 (2)適応の判定 (3)診察から治療の流れ（医療面接、身体診察、治療等）		12
	9．施術所見学実習		2
後期のまとめ		1	
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	治療院開業の経験を活かして、3年次の臨床実習に繋がるよう、まずはリスク管理を徹底できるように指導する。		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期、後期期末に実技試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします（小数点第1位は切り捨て）。複数教官により評価を行います。		
履修上の留意点	実技室以外では鍼や灸は扱わないでください。 臨床実習を想定した実技を行いますので、タオルワークや触れ方にも十分注意を払ってください。後期に臨床実習前施術実技試験を4時間程度実施します。なお、臨床実習前施術実技試験については法定時間数に記載していません。		
自己学習の進め方	解剖学、経絡経穴概論、東洋医学概論、臨床医学総論、理療臨床医学各論の内容が含まれるため、事前に取り穴法や診察に関連する内容の復習をして実習に臨んでください。		
使用教科書	鍼灸実技　オリエンス研究会編		
参考書/参考資料	新版　経絡経穴概論、人体の構造の機能（解剖学）		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう応用実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2 年	
担当教官名	水沼健生 奥山夕記子	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な東洋医学的鍼灸施術に関する知識と技術を学習するとともに、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を身につけます。さらに臨床実習前施術実技試験を通して技術や態度等に関する臨床実習参加のための総合的評価を行います。	
到達目標	1. 施術者としての基本的態度、礼節を身に付ける。 2. 医療面接及び身体診察（東洋医学的診察を中心に）ができる。 3. 病状に応じた選穴・配穴・取穴ができる。 4. 一定の時間内に症状に応じた鍼灸施術（灸施術を中心に）ができる。 5. 鍼灸施術に関わる衛生管理及びリスク管理ができる。	
前期授業計画	前期計 （ 15週）	前期計：30時間
	1. ガイダンス（年間授業計画、評価、必要用具についての説明）	2
	2. 体表の触察と背部俞穴、募穴への施灸	6
	3. 東洋医学による診察法の基礎と鍼灸施術 (1) 脈状診 (2) 比較脈診 (3) 基本四証 (4) 腹診	10
	4. 臨床入門(臨床実習前施術実技試験への対応を含む) (1) リスク管理・衛生管理 (2) 患者への対応 (3) 医療面接 (4) 身体診察	10
	5. 前期のまとめ	2

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：30時間
	6．原穴・絡穴・郄穴、下合穴の運用と灸施術		8
	7．日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と鍼灸施術 東洋医学的診断に基づいた鍼灸施術（特効穴の運用を含む） (1) 運動器疾患 (2) 呼吸器・循環器疾患 (3) 婦人科系疾患 (4) 消化器系疾患		8
	8．臨床入門（臨床実習前施術実技試験への対応を含む） (1) 診察の進め方 (2) 適応の判定 (3) 診察から施術の流れ		10
	9．後期のまとめ		4
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	治療院開業の経験を活かして、3年次の臨床実習に繋がるよう、まずはリスク管理を徹底できるように指導する。		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。複数教官により評価を行います。		
履修上の留意点	実技室以外では鍼や灸は扱わないでください。 臨床実習に向けた実技を行いますので、タオルワークや触れ方にも十分注意を払ってください。 ペアを組んだ実習では、施術者と患者を想定して実施しますので、施術者としての患者対応を意識した言動を心がけてください。 実習中に不明な点やトラブル等が発生した場合は、自分で判断せず必ず教官に報告し、指示を仰ぐようにしてください。 後期に臨床実習前施術実技試験を2時間程度実施します。なお、臨床実習前施術実技試験については法定時間数に記載していません。		
自己学習の進め方	解剖学、経絡経穴概論、東洋医学概論、臨床医学総論、理療臨床医学各論で学んだ知識を基に実習を進めていきます。実習中に覚えていない、あるいは理解できない用語等があった場合は、その日のうちに調べて解決してください。触察、脈診、腹診などの身体診察は、グループ学習による自己学習もできるので、様々な年齢や体型の方で練習し、積極的に経験を積みましょう。		
使用教科書	鍼灸実技　オリエンス研究会編		
参考書/参考資料	新版　経絡経穴概論、東洋医学概論、人体の構造の機能（解剖学）		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	衛生学・公衆衛生学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3 年	
担当教官名	島田光朗	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	健康の保持に必要な衛生学・公衆衛生学の基礎について理解するとともに、これを施術に応用する能力と技術を修得します。	
到達目標	生活習慣病対策を含む健康の保持増進に関する基本的事項を説明できる。 衛生的な生活環境と代表的な公害について説明できる。 消毒法を含む感染症対策の基本的事項を説明できる。 公衆衛生に関わる疫学や統計についての基本的事項を説明できる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	1. ガイダンス (授業計画・評価)	1
	2. 衛生学及び公衆衛生学の意義	1
	3. 健康の維持増進と生活	7
	4. 生活環境と公害	14
	5. 産業保健	5
	6. 前期の復習	2

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：30時間
	1．精神保健		2
	2．母子保健		2
	3．生活習慣病と老人保健		6
	4．感染症対策		8
	5．消毒法		3
	6．疫学		3
	7．衛生統計と人口統計		4
	8．後期の復習		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。 なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 单元ごとに資料を事前配布するので、予習・復習に活用してください。 国家試験出題基準に記載されている事項を中心に、過去の国家試験頻出ポイントに重点を置いて授業を進めます。 国家試験で重要となるポイントはその都度指示するのでしっかり押さえてください。 あはき臨床で必要となる知識についても随時紹介します。		
自己学習の進め方	自分自身の周囲で起きている身近な問題と照らし合わせながら学習しましょう。特に健康の保持増進や生活習慣病対策、感染症対策、消毒法などについては、あはき臨床を意識して学習するとより実践で役立つ知識となります。		
使用教科書	疾病の成り立ちと予防Ⅰ（衛生学・公衆衛生学）日本理療科教員連盟教科書委員会編纂		
参考書/参考資料	公衆衛生がみえる2024-2025　MEDIC MEDIA		

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床医学各論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3 年	
担当教官名	小林仁	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	主に内科系疾患についての概要、諸症状、診断、治療などを学習します。	
到達目標	1 現代医学の立場からみた系統別疾患の診断及び治療に関する基礎的知識を身に着けている。 2 主に内科系疾患、その他各疾患の病態生理及び診断、治療について説明できる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	ガイダンス（授業計画、評価）	1
	第3章 循環器疾患	9
	第4章 呼吸器疾患	8
	第5章 消化器疾患	13
	第6章 代謝・栄養疾患	4
	第7章 内分泌疾患	6
	前期のまとめ	2
	形成的評価（講評を含む）	2

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：45時間
	第8章 腎・泌尿器疾患		7
	第9章 男性生殖器疾患		1
	第10章 婦人科疾患		3
	第11章 血液・造血期疾患		7
	第12章 アレルギー・免疫異常		6
	第14章 耳鼻咽喉科疾患		4
	第15章 眼科疾患		3
	第16章 皮膚科疾患		3
	第17章 感染症		3
	後期のまとめ		6
	形成的評価（講評を含む）		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。		
自己学習の進め方	毎回の授業の要点を必ず復習し、次の授業に望むようにして下さい。また、問題集を配布しますので、各自取組んで下さい。解剖学や生理学、臨床医学総論といった科目の知識を再確認し、理解を深めていくことが重要です。		
使用教科書	生活と疾病Ⅲ 臨床医学各論 第5版(盲学校理療教科用図書編纂委員会)		
参考書/参考資料	生活と疾病Ⅲ 臨床医学各論 第4版(盲学校理療教科用図書編纂委員会)		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	リハビリテーション医学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3 年	
担当教官名	牧邦子	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	疾病や外傷によって生じた障害に対してリハビリテーションを実践することで二次的障害の予防や社会復帰を促すための知識や技術を学びます。また、リハビリテーション機器の知識や機能回復訓練の理解を深めるため機器に実際に触れて体験をします。	
到達目標	1. リハビリテーションにおける各種評価について説明できる。 2. リハビリテーションの対象疾患について説明することができる。 3. 臨床実習で遭遇する疾患の施術に実践することができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	ガイダンス (授業計画・評価)	1
	生活と疾病 I Aリハビリテーション医学 (概論編)	
	第1章 リハビリテーションの概要	4
	第2章 障害の評価	11
	第3章 リハビリテーションの治療	4
	生活と疾病 I Bリハビリテーション医学 (基礎運動学編)	
	第1章 運動学の基礎	2
	第2章 人体の構造と機能	2
	第3章 姿勢と運動のコントロール	3
	第4章 上肢の運動	2
	第5章 脊柱の運動	1

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：30時間
	第6章 下肢の運動		2
	第7章 正常歩行と歩行の異常		3
	生活と疾病ⅠAリハビリテーション医学（概論編）・（概論編）追補版		
	第4章 疾患別リハビリテーション		24
	リハビリテーション機器体験実習		1
	後期10月中旬にリハビリテーション室から機器を借用し、体験実習を実施する。		
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。 なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 原則、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心にを行います。		
自己学習の進め方	リハビリテーション医学で取り扱う疾患について臨床医学各論や解剖学などを復習してください。国家試験の問題演習は事前に解答してください。		
使用教科書	生活と疾病ⅠAリハビリテーション医学（概論編） 生活と疾病ⅠAリハビリテーション医学（概論編）追補版 生活と疾病ⅠBリハビリテーション医学（基礎運動学編）		
参考書/参考資料	新版リハビリテーション医学（東洋療法学校協会編） リハビリテーション医学 第4版（東洋療法学校協会編）		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	関係法規	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3 年	
担当教官名	池田和久	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要なあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の業務に関する法令の各規定、及び業務に関係する他の分野の法令の概要を学びます。	
到達目標	1. あはき法の意義について理解できる。 2. あはき法に定める免許行為、業務上の制限や罰則について説明できる。 3. 保健医療と社会福祉の主要な法規定についてあはき法と関連付けることができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：15時間
	ガイダンス（授業の進め方、評価方法など）	1
	第 1 章 総論	2
	第 2 章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律	5
	第 3 章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律おける業務	6
	まとめ	1

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：15時間
	第4章 罰則		2
	第5章 医療関係法規		5
	第6章 衛生関係法規		2
	第7書 社会福祉関係法規		5
	まとめ		1
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育課評価指針に基づき、前期、後期の各学期末に試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。 また、6月、11月に学習内容の理解度を把握するための形成的評価を実施します。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上（59点未満）の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。		
自己学習の進め方	あはき法に定められている免許行為、制限、罰則などが、なぜ定められているのかを理解することが大切です。将来、施術者として働いていくことを想定しながら学習を行ってください。		
使用教科書	医療と社会（改訂版第9版）		
参考書/参考資料			

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学臨床論 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3 年	
担当教官名	麻生弘樹	
修得単位数	3 単位	
年間授業時数	9 0 時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年次、2年次に学んだ西洋医学と東洋医学の知識を駆使して、診察、評価及び施術適否の判定を行い、施術を適切かつ効果的に行う知識と態度を学習します。	
到達目標	臨床の基礎、各主要症候に対する診察法、施術の適否、最適なあはき施術法について学びます。 1. 各主要症候に対し必要な西洋医学的診察法、治療の適否の判断ができる。2. 東洋医学的診察法により証を立て、その症状や所見について説明又は記述できる。3. 適応である場合、症状・疾患に対するあん摩マッサージ指圧、鍼灸施術について治療法を取捨選択し患者に説明ができる。4. 東洋医学における治療原則及び治法の概要について説明又は記述できる。5. 各疾患の特徴を理解し、病態生理、症状、経過、治療法等を簡潔に説明出来る。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	ガイダンス（授業計画、評価）	1
	治療総論	8
	現代医学的な考え方	
	東洋医学的な考え方	
	治療各論	8
	伝統・経験的な鍼灸治療	
	現代医学的な鍼灸治療	
	主訴に対する鍼灸療法	
	肩こり、頸肩腕痛	10
	肩関節痛、上肢痛	8
	腰下肢痛、膝痛	10

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：45時間
	治療各論		
	運動麻痺		8
	スポーツ医学における鍼灸療法		9
	老年医学における鍼灸療法		8
	その他		
国家試験対策（模擬講評など）		20	
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。今年度はⅠとⅡを1つにまとめて評価します。 なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 授業では事前に配布した資料を中心に説明します。問題演習は国家試験や模擬試験の過去問を用います。		
自己学習の進め方	関連科目(臨各・臨総・東概・経穴など)の内容も含めて振り返り学習してください。国家試験の過去問題演習では、解答できなかった単元は教科書を中心に、振り返り学習をしましょう。 解答を丸暗記するのではなく、十分に正答理由に納得し、学習をすすめていきましょう。		
使用教科書	臨床理療学（あはき師用東洋医学臨床論）オリエンス研究会		
参考書/参考資料	東洋療法学校協会編「東洋医学臨床論」		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3 年	
担当教官名	麻生弘樹	
修得単位数	2 単位	
年間授業時数	6 0 時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年次、2年次に学んだ西洋医学と東洋医学の知識を駆使して、診察、評価及び施術適否の判定を行い、施術を適切かつ効果的に行う知識と態度を学習します。	
到達目標	臨床の基礎、各主要症候に対する診察法、施術の適否、最適なあはき施術法について学びます。 1. 各主要症候に対し必要な西洋医学的診察法、治療の適否の判断ができる。2. 東洋医学的診察法により証を立て、その症状や所見について説明又は記述できる。3. 適応である場合、症状・疾患に対するあん摩マッサージ指圧、鍼灸施術について治療法を取捨選択し患者に説明ができる。4. 東洋医学における治療原則及び治法の概要について説明又は記述できる。5. 各疾患の特徴を理解し、病態生理、症状、経過、治療法等を簡潔に説明出来る。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	ガイダンス（授業計画、評価）	1
	治療各論	
	高血圧・低血圧	8
	食欲不振	2
	顔面麻痺、歯痛	4
	眼精疲労、鼻閉・鼻汁 脱毛症、めまい	6
	耳鳴り・難聴	4
	咳嗽・喘息	5

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：30時間
	治療各論		
	胸痛・腹痛		6
	悪心・嘔吐		4
	便秘・下痢		4
	月経異常・排尿障害		6
	発熱・冷えとのぼせ		6
	その他		4
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。今年度はⅠとⅡを1つにまとめて評価します。 なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 授業では事前に配布した資料を中心に説明します。問題演習は国家試験や模擬試験の過去問を用います。		
自己学習の進め方	関連科目(臨各・臨総・東概・経穴など)の内容も含めて振り返り学習してください。国家試験の過去問題演習では、解答できなかった単元は教科書を中心に、振り返り学習をしましょう。 解答を丸暗記するのではなく、十分に正答理由に納得し、学習をすすめていきましょう。		
使用教科書	臨床理療学 （あはき師用東洋医学臨床論） オリエンス研究会		
参考書/参考資料	東洋療法学校協会編「東洋医学臨床論」		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床診察学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3 年	
担当教官名	加藤麦	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義、演習	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な医療面接と生体観察を含む身体診察による臨床推論の実際について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。	
到達目標	臨床推論における医療面接と身体診察の意義を説明できる。 医療面接により各症状に対する病歴聴取ができる。 身体診察により各症状に対する身体所見が取れる。 病態把握によりあはき施術の適否判断ができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：15時間
	1. ガイダンス (授業計画・評価)	1
	2. 診察の流れと臨床推論	4
	3. 医療面接と身体診察の進め方	4
	4. 腰痛の診察 (神経系、感覚障害、運動機能障害、自律神経症状を含む)	6

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：15時間
	5．肩こり・頸肩腕痛の診察 （神経系、感覚障害、運動機能障害、自律神経症状を含む）		4
	6．関節痛の診察（総論）		1
	7．上肢の関節痛 （神経系、感覚障害、運動機能障害、自律神経症状を含む）		5
	8．下肢の関節痛 （神経系、感覚障害、運動機能障害、自律神経症状を含む）		5
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、前期末は診察一般に関する学科試験を実施し、後期末は整形外科的検査法や神経学的検査法についての実技試験を実施します。		
履修上の留意点	単元ごとに資料を事前配布するので、予習・復習に活用してください。 授業は配付資料をもとに進めていきます。 この授業で習得した診察スキルを臨床実習で実践してください。 あはき施術の適否判断に重点を置いた診察と病態把握を学習するので、現代医学的な診察と病態把握が中心となります。		
自己学習の進め方	あはき臨床で遭遇する可能性の高い筋骨格系及び神経系の疾患について、臨床医学総論と臨床医学各論で学んだことを復習しましょう。		
使用教科書	無		
参考書/参考資料	臨床推論 臨床脳を創ろう 錦房		

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床取穴学（生体観察を含む）	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3 年	
担当教官名	島田光朗	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義及び実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な取穴法、選穴法及び配穴法について生体観察を通じて学習します。	
到達目標	1. 体表解剖を意識した取穴をすることができる。 2. 施術に用いる選穴法・配穴法を活用することができる。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：15時間
	ガイダンス（授業計画、評価）	1
	1. 取穴法の基礎と生体観察（うち、生体観察2時間）	
	(1) 経脈の流注と取穴	1
	(2) 正経十二経脈	9
	(3) 奇穴	2
	(4) 奇形八脈	2

後期授業計画	後期計 （ 15週）		後期計：15時間
	4．鍼灸施術形式における配穴法(うち、生態観察1時間)		
	(1) 弁証論治に基づいた選穴		8
	(2)配穴法に基づいた選穴		2
	(3)特効穴に基づいた選穴		2
	(4)その他の施術形式		3
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)評価は、前期、後期に実技試験等を実施します。		
履修上の留意点	これまでの学年で学んで来た内容が頻出しますので、経絡経穴概論の復習を行ってください。 また、忘れていた箇所については再度、確認し臨床や国家試験への準備としてください。		
自己学習の進め方	総合的な知識が求められるため、経絡経穴概論、解剖学の復習を心がけましょう。		
使用教科書	新版 経絡経穴概論 第2版（日本理療科教員連盟・公益社団法人東洋療法学校協会）		
参考書/参考資料			

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧の歴史と理論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	高橋清志	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	あん摩マッサージ指圧の歴史と基礎及び臨床応用について学びます。手技療法による刺激が生体にどの様に作用し、どのような反応が起こるのか、期待できる治療効果はどのようなものかについて学びます。	
到達目標	1. あん摩マッサージ指圧の基礎知識（あん摩マッサージ指圧の手技の種類や用途）が理解できる。 2. あん摩マッサージ指圧の基本手技が理解できる。 3. あん摩マッサージ指圧の生態へ及ぼす作用が理解できる。 4. あん摩マッサージ指圧の治効理論が理解できる。 5. あん摩マッサージ指圧の施術におけるリスク管理ができる。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：30時間
	ガイダンス	1
	ガイダンス（年間授業内容の説明、本科目の臨床実践や国家試験における位置づけ等）	
	1 あん摩マッサージ指圧の意義	2
	2 あん摩	8
	（基本手技の名称と機械的要素、各基本手技の適応部位、主な作用）	
	3 マッサージ	6
	（基本手技の名称と機械的要素、各基本手技の適応部位、主な作用）	
	4 指圧	4
	（押圧の仕方による圧法の種類、各手技の適応部位、主な作用）	
	5 その他の関連する治療法	3
	（カイロプラクティック、関節モビリゼーション等）	
	6 あん摩マッサージ指圧の臨床応用	4
	（刺激の大小と生体反応、適応症と禁忌症等）	
	前期のまとめ	2

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：30時間
	7	リスク管理（揉みかえし、骨折、転倒等の予防）	4
	8	基礎理論（皮膚の受容器、伝導路等）	8
	9	治効理論（機械的刺激による効果、反射作用を利用した効果）	10
	10	関連学説（ホメオスターシス、ストレス学説等）	6
		後期のまとめ	2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、11月に形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
自己学習の進め方	今まで学んだ解剖学、生理学、東洋医学概論等の内容を復習し、当該科目で得られた知識と統合させていくことが必要となります。		
使用教科書	基礎保健理療Ⅱ（保健理療理論） 都立文京盲理療科研究会著 改訂版		
参考書/参考資料			

令和 8 年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅうの歴史と理論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3 年	
担当教官名	池田和久	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	はりきゅう理論の基礎知識と術式、治効理論等を学びます。	
到達目標	1. はりきゅうの基礎知識（はりきゅうの種類や用途）がわかるようになること。 2. はりきゅうの基本手技を理解すること。 3. はりきゅうの治効理論を理解すること。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：30時間
	1. ガイダンス（年間授業計画、評価についての説明）	1
	2. 鍼の種類と刺鍼方法	6
	3. 灸法の分類	5
	※上記2と3の内容に、適宜はりきゅうの歴史と意義について触れる。	
	4. 鍼灸の臨床応用（感受性と刺激量、鍼灸の適応と禁忌）	5
	5. 鍼灸のリスク管理	10
	6. 前期のまとめ	1
	7. 形成的評価（解説含む）	2

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：30時間
	1．体性感覚と鍼灸刺激		6
	2．鍼刺激による鎮痛		5
	3．鍼灸の関連学説		4
	4．鍼灸刺激による局所炎症		4
	5．鍼灸刺激と神経性反応（自律神経を含む）		4
	6．鍼灸刺激と体液性反応（免疫反応を含む）		2
	7．鍼灸の作用機序に関する最新知見		2
	8．後期のまとめ		1
	9．形成的評価（解説含む）		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。 なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 1年・2年で学んだ経絡経穴概論、解剖学、生理学等の内容を復習し、当該科目で得られた知識と統合させていくことが必要となります。		
自己学習の進め方	1年・2年で学んだ次経絡経穴概論、解剖学、生理学等の知識が必要となるため、しっかりと復習して理解していくことが必要となります。		
使用教科書	基礎理療学Ⅲ（新版理療理論）第2巻		
参考書/参考資料	毎回、資料を配布しますので、それに沿って進めていきます。		

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	地域理療と理療経営	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	水沼健生	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な地域社会における理療の役割、保健・医療・福祉のあり方、及び理療の経営についての知識を修得し、施術者並びに経営者としての能力と態度を修得します。	
到達目標	1. 地域社会における理療の役割を理解することができる。 2. 施術所経営や医療保険制度等について説明することができる。 3. 進路に関する情報を収集し、問題を解決することができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	ガイダンス（授業計画・評価）	1
	1. 地域社会と理療	
	(1) 地域社会における理療 (保健、医療、介護との関係、理療とその職域)	4
	(2) 高齢社会と理療	4
	2. 理療経営の基本	
	(1) 開業準備(免許申請、解説届、施術所の立地条件、宣伝・広告)	6
	(2) 資金の調達(生活福祉資金制度、公的融資制度)	3
	(3) 財務管理	3
	3. 施術のリスク管理と賠償責任保険	6
	4. 就労に関する法律、制度	
	(1) 労働基準法(労働協約、就業規則、最低賃金法、雇用契約)	2
	前期のまとめ	1

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：30時間
	(2)障害者の就労に係る法律、制度		3
	5. 健康保険制度における理療		
	(1)あん摩マッサージ指圧と診療報酬点数(消炎・鎮痛等処置、理学療法)		3
	(2)療養費としてのあん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの取り扱いとその実務		3
	6. 労災保険におけるあん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの取り扱い		3
	7. 公費負担医療における理療の取り扱い(生活保護における取り扱い)		2
	8. 地域社会における施術費助成制度(施設費払い制度、その他の助成制度)		2
	9. 介護保険制度と理療		
	(1)介護保険制度の概要		2
実務経験の有無 その活かし方	(2)機能訓練指導員、介護支援専門員の役割		5
	(3)介護保険給付の内容		5
成績評価の方法	後期のまとめ		2
履修上の留意点	無		
自己学習の進め方	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。評価は原則、前期末と後期末に課題に対するレポート提出とし、必要に応じて筆記試験を実施します。		
使用教科書	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 前期・後期に課題に対するレポートを提出してもらいます。		
参考書/参考資料	普段から、理療業界や時事問題について関心を持つよう心掛けましょう。		
	地域理療と理療経営 改定第8版(岡山ライトハウス)		

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧臨床実習	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	山本浩二 梶間美智子	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年次、2年次に学んだあん摩マッサージ試圧実技の技術を駆使して、診察、評価及び施術適否の判定を行い、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を学習します。	
到達目標	1. 理療師として必要な基本的心構えと態度(礼儀作法、言葉づかい、身だしなみ、接遇態度など)を身に付け実践できる。2. 設備や備品の管理、清潔の保持(消毒を含む)ができる。3. 臨床実習室にある各種医療機器の操作法について、使用上の注意も含めて理解し、教官の指導のもとで適切に使用できる。4. 他の科目で学習した知識や技能を活用し、適切かつ効果的な診察や治療ができる。5. 施術適否の判定ができる。6. 臨床実習の内容をカルテとして作成できる。7. 施術プランに応じて決められた時間内に一定の効果を出すことができる。8. それぞれの進路にあった知識、技術、コミュニケーションができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計: 45時間
	1. ガイダンス(年間計画、評価) (1) 臨床実習の位置づけと施術室における流れの説明 (2) 環境確認(ベッドメイキング、患者の誘導、後片付けを含む) (3) リスク管理、衛生管理、施術録作成の説明・指導 (4) 利用者による施術と教官による確認と指導	6
	2. 実習協力者を介しての病態像の把握とあん摩マッサージ指圧による施術 (1) 再診における問診必要事項の聴取 (2) 必要な触診、徒手検査の実行、施術適否の判定 (3) 施術の目標・目的の設定と施術方法の組み立て (4) 利用者による施術と教官による確認と指導	33
	3. 効果判定、評価 (1) 利用者と教官による直後効果の判定、評価 (2) 実習協力者からの施術後の実感の聴取	3
	4. パソコンによる電子施術録の作成とチェック、指導、カンファレンス 利用者から提出された施術録のチェックと必要な指導	2
	5. 前期のまとめ	1

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：45時間
	6．実習協力者を介しての病態像の把握とあん摩マッサージ指圧による施術 (1) 初診・再診それぞれに応じて問診必要事項の聴取 (2) 必要な触診、徒手検査の実行、施術適否の判定 (3) 施術の目標・目的の設定と施術方法の組み立て (4) 利用者による施術と教官によるチェックと指導		35
	7．効果判定、評価 (1) 利用者と教官による直後効果の判定、評価 (2) 実習協力者からの施術後の実感の聴取		4
	8．パソコンによる電子施術録の作成とチェック、指導、カンファレンス 利用者から提出された施術録のチェックと必要な指導		3
	9．後期のまとめ		3
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	治療院での施術経験を活かして、現実の施術機会に用いられる骨系、筋系、神経系のポイントを紹介して、実技科目に応用できる知識を養います。		
成績評価の方法	理療教育課・臨床実習評価基準に基づいて評価します。各期末成績の平均点をもって学年末の評価とします。		
履修上の留意点	実習参加にあたっては、事前に清潔な白衣の準備や爪切り、実習中のマスク着用を求めます。		
自己学習の進め方	予約患者のカルテ確認、病態把握等、臨床実習準備に重点を置き、関連科目の内容も含めて振り返ることを心がけます。		
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	臨床理療学（改訂第2版）		

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう臨床実習 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	３年	
担当教官名	小林仁 嶋正明	
修得単位数	２単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 （授業科目の内容）	施術者として必要なはりきゅう臨床に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。また、実習協力者への施術を通して、施術者として必要な知識、技術、態度を修得します。	
到達目標	１． 施術者として必要な心構えと態度を実践できる。 ２． 医療面接や身体診察から病態把握や施術の適否鑑別ができる。 ３． 施術における適切なリスク管理ができる。 ４． 施術録を明瞭かつ客観的に記載できる。	
前期授業計画	前期計 （１５週）	前期計：45時間
	１． ガイダンス（年間計画、評価） (１) 施術者としての基本（施術者としての心得、患者への対応） (２) 設備や備品の管理と清潔の保持 (３) 消毒（施術器具の消毒、手指及び施術部位の消毒） ２． 施術の実践 (１) 教官とともに診察・評価し、教官の指導の下で施術する 主訴、症状を明らかにする。疾病の理解、施術の適否の判断 施術の説明と同意、症状に基づいた評価、治療目標、治療計画 安全で効果的な施術の選択と実施 (２) 教官とともに施術後の評価を検討する 施術後の評価と検討 (３) 施術後、施術録を作成し、指導と助言を受ける。 適切な施術録の作成	５ 40

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：45時間
	2．施術の実践 (4) 臨床家として診察・評価・施術、その結果についての検討 臨床上的実践、課題発見と自己解決 実習のまとめ		45
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 治療院の開業経験を活かして、リスク管理がしっかりとできるように指導を徹底する。また治療法についても治療効果を高めるための手技等を教授する。	
成績評価の方法	理療教育課・臨床実習評価基準に基づいて評価します。各期末成績の平均点をもって学年末の評価とします。		
履修上の留意点	実習参加にあたっては、事前に清潔な白衣の準備や爪切り、実習中のマスク着用を求めます。		
自己学習の進め方	総合的な知識が求められるため、1年次、2年次に学習した西洋医学、東洋医学の復習を心がけましょう。		
使用教科書			
参考書/参考資料			

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう臨床実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	３年	
担当教官名	山田忠 奥山夕記子	
修得単位数	２単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実習	
科目の概要 （授業科目の内容）	施術者として必要なはりきゅう臨床に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。	
到達目標	１． 施術者として必要な心構えと態度を実践できる。 ２． 医療面接や身体診察から病態把握や施術の適否鑑別ができる。 ３． 施術における適切なリスク管理ができる。 ４． 施術録を明瞭かつ客観的に記載できる。	
前期授業計画	前期計 （ 15週）	
		前期計：45時間
	１． ガイダンス（年間計画、評価） （１） 施術者としての基本（施術者としての心得、患者への対応） （２） 設備や備品の管理と清潔の保持 （３） 消毒（施術器具の消毒、手指及び施術部位の消毒）	6
	２． 施術の実践 （１）教官とともに診察・評価し、教官の指導の下で施術する 主訴、症状を明らかにする。疾病の理解、施術の適否の判断 施術の説明と同意、症状に基づいた評価、治療目標、治療計画 安全で効果的な施術の選択と実施 （２）教官とともに施術後の評価を検討する 施術後の評価と検討 （３）施術後、施術録を作成し、指導と助言を受ける。 適切な施術録の作成	39

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：45時間
	2．施術の実践 （4）臨床家として診察・評価・施術、その結果についての検討 臨床上的実践、課題発見と自己解決 実習のまとめ		45
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 治療院の開業経験を活かして、リスク管理がしっかりとできるように指導を徹底する。また治療法についても治療効果を高めるための手技等を教授する。	
成績評価の方法	理療教育課・臨床実習評価基準に基づいて評価します。各期末成績の平均点をもって学年末の評価とします。		
履修上の留意点	外部患者への施術を行うため、通常時以上の感染症対策を徹底して行う必要があります。		
自己学習の進め方	総合的な知識が求められるため、1年次、2年次に学習した西洋医学、東洋医学の復習を心がけましょう。		
使用教科書			
参考書/参考資料			

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	理療情報活用	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	池田和久	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	45時間	
授業の方法	講義（演習を含む）	
科目の概要 (授業科目の内容)	情報機器の活用を通じて、文書作成やデータ処理を修得し、各科目の学習に役立てるとともに、情報機器の理解と活用方法を学習します。また、理療分野の情報を適切に収集・処理・発信するための基本的な知識や技能を身につけます。	
到達目標	1. 情報と情報機器について理解し、有効に活用することができる。 2. 情報のモラルとセキュリティに関する知識を身につけ、有用性とリスクを理解した上で利用することができる。 3. 理療における個人情報の管理やカルテ入力・管理ができる。 4. 理療に関する情報の収集・処理・発信の方法について理解できる。	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：30時間
	ガイダンス（指導計画書、授業の進め方等）	1
	1. 情報と情報機器	5
	ア 情報の意義	
	イ 情報化の進展とその影響	
	ウ 視覚障害者の情報社会への参加と情報技術の活用	
	エ 情報機器の基本的な仕組みと操作 （情報機器の構造と基本的な用語等）	
	オ 情報機器の基本的な仕組みと操作（文書作成、表計算等） スクリーンリーダーとその活用、キーボードのタイピングの実際	16
	2. 情報のモラルとセキュリティ	4
	ア 情報の意義とモラル（著作権法、ウイルス対策等）	
イ 情報のセキュリティ管理		
前期のまとめ	4	

後期授業計画	後期計 （15週）		後期計：15時間
	3．情報機器の理療への活用		2
	ア 理療における情報機器の活用の目的と意義		1
	イ 個人情報の管理		1
	ウ 電子施術録の管理（カンファレンスを含む）		3
	エ 情報システムの理療への応用（SNS等の活用を含む）		7
	後期のまとめ		1
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。		
履修上の留意点	・個人毎にPCの使用する環境（外付けキーボード、イヤホン等）を必要に応じて整えてください。 ・ご自身のPCを使用する場合は、OSを最新の状態にし、セキュリティ対策ソフトを必ずインストールして使用してください。		
自己学習の進め方	・学習や余暇活動で毎日PCに触れ、その中で操作上の課題や疑問点等を見つけたら、インターネットで調べたり、身近な方に聞いて、PCでできることを増やしていくよう日々工夫をしてください。また、授業で学んだ操作方法是ファイルに整理して、復習操作を行ってください。		
使用教科書			
参考書/参考資料	社会と情報 Next（数研出版）		

令和8年度 授業計画書(シラバス)

科目名	医療概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3 年	
担当教官名	池田和久 鳥丸大地	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	現代の医療制度と社会保障制度の基礎的知識、社会性豊かな施術者としての心構えや職業倫理や生命倫理について学びます。	
到達目標	現代医療の課題について述べることができる。 医療制度や社会保障制度について説明することができる。 最新の統計情報を取り扱うことができる。 施術者としての倫理（職業倫理）を身につけることができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：15時間
	1. ガイダンス（授業計画・評価）	1
	2. 医療倫理	
	(1) 医療倫理・医療教育の倫理	3
	(2) 施術者としての職業倫理	2
	3. 社会保障制度	
	(1) 介護サービス行政	4
	(2) 医療保障	2
	(3) 医療保険の仕組み	2
	(4) 公費負担医療	1

後期授業計画	後期計（15週）		後期計：15時間
	4．現代医学と医療		
	（1）近代医学の特徴		3
	（2）医療と社会		2
	（3）医療経済		1
	（4）医療従事者		2
	（5）医療・福祉施設		2
	5．医学史・参考データ・国家試験過去問等		5
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。 なお、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが学年末評価には含みません。		
履修上の留意点	学年末成績が50点以上60点未満の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。 原則、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。		
自己学習の進め方	医療制度や社会保障制度についてニュースなどを聞くように心がけてください。国家試験の問題演習は事前に解答してください。		
使用教科書	医療と社会 改訂第9版		
参考書/参考資料			